

令和6年度 第1回豊後高田市総合教育会議議事録

日 時 令和7年2月6日(木) 13:30 開会

場 所 豊後高田市役所高田庁舎3階
301会議室

出席者 市 長 佐々木 敏夫

教育委員会

教育長 河野 潔

委 員 護城 和代

委 員 大嶽 由美子

委 員 松成 康男

委 員 桑原 猛

事務局

市総務課長 飯沼 憲一

教育総務課長 植田 克己

学校教育課長 河野 政文

文化財室長 河野 典之

市総務課総括主幹兼総務法規係長

矢野 裕治

教育総務課総括主幹兼総務管財係長

岩田 隆宏

報道関係 大分合同新聞 記者

朝日新聞 記者

企画情報課広報 担当

市ケーブルネットワーク担当

=====

1. 開会

○市総務課長 飯沼 憲一

みなさん、こんにちは。

総務課の飯沼でございます。本日の進行をさせていただきます。

本日の出席者は、佐々木市長、河野教育長及び教育委員の皆さん、6名全員出席であります。

ただ今から、令和6年度 豊後高田市総合教育会議を開催いたします。

開会にあたりまして、皆さんに予めご了承いただきたいことがございます。

この会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、原則公開することとなっております。

ます。

法の趣旨にそって、公開で開催させていただき、会議録につきましても、ホームページで公開させていただきますので、ご了承願います。

それでは、最初に、佐々木市長よりごあいさつ申し上げます。

2. 市長あいさつ

○市長 佐々木 敏夫

本日は、たいへんお忙しい中、令和6年度の総合教育会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

教育委員の皆様方には、日頃から、豊後高田市の教育のまちづくりに関し、ご理解と、ご協力をいただいていることに、心より感謝を申し上げる次第でございます。

さて、ご案内のとおり、全国的に少子高齢化、人口減少が大きな問題となっております。現在の子育て世帯の環境を考えて見ますと、夫婦共働きの時代であり、子育てには、多くの時間と費用がかかります。そういう意味で、保護者負担を軽減し、子育てを社会全体で支えていく、積極的な施策が求められております。

本市は、この問題に、いち早く取り組んでおりまして、皆さまには、すでに、ご案内のとおり、

「0歳児からの保育園、幼稚園の完全無料化」

「中学生までの給食費無料化」

「高校生までの医療費無料化」

「園児から中学生まで 無料で学べる市営塾」

「難関大学 突破に向けた 高校生のための無料塾」

「高田高校の授業料の完全無料化」などを実施しております。

こうした取り組みにより、昨年4月には、若い女性の減少率が県内で最も改善し、「消滅可能性自治体」から脱却することができました。

また、令和6年も転入者が転出者を上回る人口の社会増を、県内で唯一、11年連続、達成することができました。

そして、先月には、「住みたい田舎ベストランキ

ング」の発表があり、本市は、5年連続、子育て世代部門をはじめとする全部門、日本一を獲得することができました。

こうした成果を、さらに一步先へ進めるとともに、市内唯一の高校である高田高校の存続と魅力向上化も図るため、高田高校の希望するすべての生徒に、無料で昼食を提供する準備を進めております。

これにより、「0歳児から高校生までの医療費、授業料、給食費の完全無料化」となります。

また、現在の物価高騰への対策といたしまして、国が実施する住民税 非課税世帯の支援を本市独自で、均等割のみの課税世帯へ拡充し、一世帯当たり3万円と、子ども一人当たり2万円を加算した給付金を支給しております。

さらに、独自で、総額4億5千5百万円の第9弾となる3割のプレミアム商品券を9日の日曜日から販売を開始いたします。

こういった施策の実施には、財源が必要ですが、市の財政状況は、県内14市で、4年連続、高田が一番です。政策と財源はセットでありますし、投資なくして、未来はありません。

本日は、地域の実情に応じた教育の振興を図るための会議でございます。

皆様から、ご意見をいただきながら、未来を担う子ども達の教育に、全力で取り組んでまいりますので、何とぞ、よろしくお願い申し上げます。

3. 教育長あいさつ

○市総務課長 飯沼 憲一

つづきまして、河野教育長よりごあいさつを申し上げます。

○教育長 河野 潔

みなさん、こんにちは。

先ほど、市長から豊後高田市の市政および教育施策や子育て施策につきまして、その具体的な取り組みの紹介をいただきました。

このような施策のおかげで、園児・児童・生徒については、微増ではありますが、増加の傾向にあり、大変ありがたく感謝をしているところであります。

そのことによりまして、園・学校の統廃合の不安もなく、子ども、保護者、市民、そして教職員も安心して、特色ある学校づくりに邁進できているとこ

ろです。

また、総合教育会議の趣旨でもあります、市長と教育行政が風通しの良いものとなっていることから、課題の共有化や施策の理解、遂行につきましても、学校教育、社会教育、学校施設の整備、ギガスクール構想の推進、文化財保護等で市長をはじめ、市長部局の職員ともしっかりと目標を定め、連携ができています。特に直近の取り組みでは、先ほど、市長のごあいさつの中にもありました、高田高校生に対する無料での昼食の提供がありますが、本日の資料の中でも後ほどご説明させていただきますが、『食』に於きましても、高田高校生を応援することとなったところです。

高田高校生のための公設民営塾「うみね」も今年で3年目が終わろうとしています。

これまで様々な進路進学に対応するために、高校生への最適な指導をする、いわゆる「出口戦略」のところが少し弱いことが指摘されてきましたが、この公設民営塾「うみね」が、ちょうど3年経過し、その成果が問われるところでもあります。

高田高校生も大学入学共通テスト、そして、前期試験、後期試験などと、大切な時期を過ごしているところではありますが、必ずや、成果をだしてくれるものと期待をしているところであります。

後ほどの協議・調整事項の中でも、具体的に多岐にわたって、教育行政や施策の説明をいたしますので、ご意見をいただければ幸いです。

何卒よろしくお願いいたしまして、総合教育会議でのあいさつとさせていただきます。

4. 協議・調整事項

○市総務課長 飯沼 憲一

それでは、早速ですが、協議・調整事項に移ります。会議は、豊後高田市総合教育会議運営要綱 第2条第3項に基づき、市長が議長として議事進行を行うこととなっています。

佐々木市長、よろしくお願いします。

○（議長）市長 佐々木 敏夫

それでは、議長を仰せつかりましたので、議事を進めてまいります。

6つの項目について、協議・調整をお願いします。

まず、1番目の「児童・生徒の学力、体力につい

て」事務局から説明をお願いします。

○学校教育課長 河野 政文

本日は、よろしくお願いします。

座って説明をさせていただきます。

それでは、資料の2ページから5ページをご覧ください。今年度の豊後高田市学力定着状況調査のことを示しております。

この調査につきましては、教職員が自分たちの授業のあり方がどうであるか、改善すべき点がないのか。それを見いだした場合には、学校組織として授業改善に取り組む。あるいは、個別指導が必要な児童・生徒につきましては、適した個別最適な課題を用意し、取り組んでいく、そのようなものの材料にするのがこの調査結果となります。

それでは、2ページのことについて説明させていただきます。まず小学校についてです。

青色で塗りつぶした箇所をご覧ください。これは、目標値に対して小学校の子どもたちがどのような結果になっているかを示している列であり、目標値に対して本市の正答率が3ポイント以上、上回った場合、青色に塗っており、ほぼどの学年もクリアしております。全国平均にしますと青い箇所が少し、減っておりますが、ほぼ全国平均に近い数字になっているところでございます。良かった点は、国語の応用が3年生、5年生、6年生が応用・活用問題において全国平均を上回っている。算数は3年生、5年生がほとんどの領域・単元で全国平均を上回っています。

理科につきましては、4年生、5年生において基礎・応用ともに全国平均を上回っており、4～6年生ともに記述式の問題において平均を上回っています。

その中で課題となっていますのが小学校4年生以上の「漢字の書き」に課題があるということがわかりました。算数は、小学校6年生の全ての領域において少し下がっております。特に立体図形の単元において正答率が低くなっています。

理科では振り子の運動や電気の通りの道の元において正答率が低くなっていますので、こういった単元につきましては、全体指導が必要なのか習熟度別指導が必要なのか個別最適な学びが必要なのかということを学校で分析する形になります。

中学校をご覧ください。

中学校では、1年生の目標値につきましては数学を除く教科では青く塗りつぶされています。数学も目標値は超えております。中学2年生につきましては、国語、社会、理科が目標値を超えています。ただし、数学と英語につきましては、若干、課題がありますのでその部分は学校でしっかりと組織的に改善に取り組むという形になります。良好な項目につきましては、国語において漢字の読みかきにおいて中1・中2ともに平均を上回っております。英語においては、1年生は「聞くこと」「読むこと」、2年生では「書くこと」において全国平均を上回っています。

課題につきましては、国語の記述式の問題の正答率が低くなっており、無回答率もたかくなっています。また、適切な敬語を選択する問題においても正答率が低くなっている結果です。

1年生、2年生とも数学が全国平均と比べると低くなっており、課題が見られます。特に方程式の利用、円と球、1次関数などが昨年と引き続き課題となっています。

また、2年生の英語におきましても聞き取りの問題、また、記述式の問題について正答率が低くなっています。

4、5ページをご覧ください。

このような状況の対策と致しまして、各学校で課題の分析、今後の対策をまとめて指導の改善を図るものでございます。

特に5ページをご覧ください。2の4層分析のところパターンⅠ、Ⅱ、Ⅲと別れておりましてこのA B C Dは全体を25%ずつ4段階に分けており、その中でA層とB層の開きが大きいものにつきましては、全体指導が必要になってきます。BからCの中間層の差が大きくなってきているということは、2極化になっていますので習熟度別の授業をする。パターンⅢでCからD層の差が大きい場合は個に応じた個別な学びをしっかりとやっていくということです。この様式1をもとに学校全体がこの学年についてどんな課題がありどう取り組まないとならないかということが実際に見えてきますので課題について学校組織をあげて取り組んでいきます。

以上が学力となります。

次に6, 7ページをご覧ください。小学校5年生、中学2年生の令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等の調査結果であります。赤いラインが全国平均を50として見た時の大分県と豊後高田市のグラフとなっております。小学校につきましては、男女ともに全国の平均を上回っています。中学校の男子につきましても全国の平均を上回っている状況にあります。中学校女子につきましては、20mのシャトルランと立ち幅跳びに課題がみられます。ただし、ハンドボール投げにつきましては、60%以上の最大値を超えております。

体力合計点による調査結果では、大分県は、小学校5年の男女、中学校2年の男子では全国2位、九州では1位になっておりますので児童生徒の体力は、全国と比較すると依然高い水準にあります。豊後高田市では、ほとんどの項目で、大分県の平均より大きく上回っている状況であります。

引き続き、1校1実践の取り組みをしながら子どもたちの体力向上に向けて取り組んでまいりたいと思っております。

○市長 佐々木 敏夫

はい、ただいま、事務局から説明をいただきましたが、皆さま方からご意見をお聞かせ願えたらと思います。

○委員 大嶽 由美子

豊後高田市の学力調査について初めにお話しさせていただくのですが、国の調査と県の調査のアンケートを行って豊後高田市が独自に全体傾向を調べており、継続的な調査であり、各学校や個人が対策を練っているところがより重要なポイントになっているのではと考えます。おかげさまで子どもたちの学力も安定した力をつけていけているではと思います。大事なことは、個人個人がどのような傾向にあって、得意や不得意があることを学校や担任がしっかりと把握して、子どもたちが力をつけていこうとしていることです。とてもよい傾向ではないかと思います。

○委員 松成 康男

学力につきましては、教育委員会としましても非常に重要なところだと思います。全国平均の数値は平均の数値だと分かるのですが、この目標値の数値とは、何の目標の数値なのかを教えてください。

○学校教育課長 河野 政文

各教科のテストの單元ごとに目標値というものが設定されております。その目標値のことでテストを作成している業者がその年の傾向等を把握し、設定しているものでございます。

○委員 松成 康男

その目標値をどの学年もほぼすべて上回っているのは、非常に評価できることではあるが、全国平均を下回っている教科は心配になります。学校ごとに分析ができ、細かいことは分かると思いますのでしっかりと対策をたててほしいです。

○委員 護城 和代

学力調査の全体傾向をみて、全国平均より下回っているのが気になります。豊後高田市は、外国の方も多いので英語に頑張ってくればよいと思います。正答率が低いのは、間違っている回答が多いことだと思うのですが無回答率というのは、全く分からないということなのではと思います。子どものつまずきに合わせて、早めに対処できたらよいと思います。

○委員 桑原 猛

学力調査の中学校2年生についてですが全国平均を下回っているのが気になります。その改善策とかがあれば教えていただきたい。

○学校教育課長 河野 政文

各学校の子どもたちすべてに個別に、それぞれの学習状況の個票が渡されます。その時に担任の先生が面談をしながら子どもたちにこんなことを頑張ったらいいいのではないかとアドバイスをします。教科につきましては、先ほど説明したとおりの4層分析に従って個別がいいのか習熟がよいのか全体でもう一度学習したほうがいいのか具体的に2～3月の2か月間にかけて1年間の補充をしていくという流れになっています。本当に個別指導が必要な場合は、しっかりと先生たちが子どもたちと向き合っていくようになっています。

○委員 大嶽 由美子

体力についてですが以前は中学校の女子に課題等があったのですが、今回は、ほぼ全国平均を上回っているということで各学校が体力面でも力を入れているということ。先ほど、課長が言われたように各学校の1校1実践を行っていることが効果が

上がっているのではと思いました。

そのおかげですかね？

○学校教育課長 河野 政文

そうですね。小学校の場合だと「毎日歩いて登校しましょう」という取り組み等で常に運動好きを増やそうとしっかりとやっております。中学校の場合は、「柔軟をしっかりやっていこう」とか体育だけではなくて学校でスポーツに親しむような取り組みを常にやっております。

○委員 松成 康男

中学校の女子のハンドボール投げがとても良い結果がでているのですが、特にハンドボールに力をいれているということは聞いたことがないのですが何か理由があるのですか。

○学校教育課長 河野 政文

特にハンドボール投げに力を入れているという事実はないのですが結果をみて私たちも「頑張っているのだな。」と思いました。

○委員 松成 康男

男子もハンドボール投げの結果がよいですね。肩が強い人が多いですね。

○委員 桑原 猛

全体的にみて、運動のできる元気な子どもが多く、素晴らしいことだなと思いました。

○市長 佐々木 敏夫

他にないですか。なければ次の議題にいきたいと思います。

それでは、「部活動の地域移行」について、事務局から説明をお願いします。

○学校教育課長 河野 政文

現状とこれまでの取り組みについて説明させていただきます。

8ページをご覧ください。

豊後高田市においては、国の方向性と豊後高田市の現状を踏まえ、一人ひとりのニーズに応じたスポーツ・文化芸術環境を整えるため、令和4年度に部活動検討委員会を立ち上げ、部活動の地域展開の実現について協議を進めています。

現在、国は令和5年度から令和7年度までの3年間を改革推進期間としており、令和8年度には休日の完全移行を目標としています。本市においても、令和7年度末を目途とし、中学校部活動「休日指導」

の移行のための条件整備を進めています。

今年度は、学校部活動37部（運動部30部・文化部7部）、その中で拠点型部活動6部（運動部2部・文化部4部）、あります。この拠点型の部活動におきましては、部活動指導員がおりましてどの学校からも参加することができるようになっております。

地域移行として1部カヌー部を地域クラブとして現在、検証しているところでございます。

地域クラブ指導者については、2名の配置となっております。

また豊後高田市に本年度から地域移行に係る総括コーディネーターを1名配置し、地域移行の円滑な運営、体制づくり等コーディネーターを核としてさらに進めているところでございます。

これまでの取り組みとしては、部活動検討委員会が市教委、そしてTMK、中学校の代表として進めながら行っています。

今後の取り組みとして指導者の確保・財源の確保・文化部の休日の地域展開・「豊後高田市中学生校部活動地域指導者人材バンク」設立・学校部活動の整理など、引き続き検討委員会で協議を重ねていき、豊後高田市の生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる環境づくりに努めていきます。

10ページが組織、11ページが、12ページが持続可能な部活動等の地域移行の進め方を掲載しております。

13ページにつきましては、部活動指導員・地域クラブの指導者の一覧を掲載しております。

以上であります。

○市長 佐々木 敏夫

はい。それでは、この内容について委員の皆さん、質問やご意見等ありますか。

○委員 護城 和代

地域スポーツクラブの「ぶんごたかだカヌークラブ」についてなのですが、このクラブは、小学校からもう入れるようになるのですか。

○学校教育課長 河野 政文

もともと小学校・高田高校には、カヌーに参加している子どもがいましたが、中学校に関してははっきりした組織がなかったので中学生も地域スポーツクラブのカヌークラブでみていくことになりま

した。

○委員 護城 和代

拠点型部活動とは、部活動を指定の学校に行って行うということですか。例えば、拠点型部活動の空手部とか茶道部は、日曜日とかも指定の学校に行っているということですか。

○学校教育課長 河野 政文

普段から行う場所が決まっており、そこに生徒がその場所に行き部活動を行うということでございます。

○委員 桑原 猛

『3. 今後の取組』のことについてですが、「学校部活動の整理」と記入がありますが、これは、どのような意味ですか。整理というのは、少なくなるということですか。

○学校教育課長 河野 政文

拠点型の部活動を増やしていこうということでありまして、文化部も含めて、子ども達が活動しやすい環境づくりをしていこうということでございます。

○委員 桑原 猛

学校部活動がなくなるということではなくて、子どもたちの選択肢を増やしていこうということですね。

○委員 松成 康男

中学校の部活動については、自分たちが小さいころに比べると現在は、人数的な制約のせいで、取り組みが難しくなっていると思う。そのためにこういう対策で少しでもチャンスを確保してあげることが非常に大切なことだと思います。

以前より、選択肢が増えることには非常に喜ばしいことだと思いますので子どもたちの充実のために今後も頑張っていってほしい。

○委員 大嶽 由美子

この地域展開については、今、良いところがたくさん出ていると思うのですが、子どもたちの移動が本当に大変だろうと感じます。小さい中学校の子どもたちが色んな選択肢ができることは、本当に素晴らしいことだと思うのですが、部活動のために高田中学校に行くということは本当に大変なことだと思います。そこら辺の課題も教育委員会としては解決しながら、子ども達のチャンスを広げてい

てほしいと思います。

前に都甲中学校があったときに、女子はソフトボール部があった。子ども達は、「中学校に行ったらソフトボールしかできないんだ」ということで、それは、1つのチャンスでもあるんですけど、「他の選択肢が欲しいな」という声をきいたことがあるので今、このような色々な部活動を展開できるということを子どもたちが喜んでくれたらいいなと思っています。指導者を探すのが本当に大変だと思うのですが頑張って取り組んでくれたらいいなと思っています。

○市長 佐々木 敏夫

教育委員会の方から何か総合的に報告したいことはありませんか。

○学校教育課長 河野 政文

今、国の方で「部活動の地域移行」という名前になっていましたが4月から「部活動の地域展開」と言葉が変わります。また4月から「地域展開」とは、具体的にどんなものを報道すると思われます。また、国の方向性が分かりましたら検討して会議に出したいと考えております。

また、9ページの先ほど地域クラブの指導者2名の配置と説明しましたが正しくは1名の配置です。訂正しておいてください。

○市長 佐々木 敏夫

クラブ活動の地域移行については、指導者がまず見つかりにくいということと財源が関係しませんか。

○学校教育課長 河野 政文

コーディネーターを中心に指導者につきましては、現在、リストを作成しているところでございます。

財源につきましては、やはり、課題に感じているところでございます。

○市長 佐々木 敏夫

施策や事業、何をするにもまずは財源が一番重要な問題であると考えています。そのため、地域移行につきましてもこちらの都合で部活動を行う時間帯が決まり、指導者に対する対価が問題になってくるのではないかと。

対価の問題があると、子どもたちに適切な指導ができないのでは考える。学校現場も意識して、問題

がある場合は、しっかりと上に報告してほしい。

○委員 大嶽 由美子

市長がおっしゃるように、やはり指導者の方が「自分の生活がある」また、「仕事とかもある」中で指導する時間を確保できるように市としてきちんと保障してあげるように進めていってほしいと考えます。

○委員 松成 康男

指導される方も楽しんでやられている分には良いのですがただ、自己犠牲の中で成り立っているのであればこれは、問題だと思います。

ボランティアに頼るというのは、やはり、厳しいと思いますので市長がおっしゃったように財源の確保等しっかり行って制度やルールを作るとよりやりやすいのかなと思います。

○委員 桑原 猛

ボランティアはとても厳しい。好きで指導する分はよいとは思いますが。とても良い制度なので、ぜひ、より良いやり方で考えて行ってほしい。

○委員 護城 和代

指導者の方も皆さん、仕事をされており、どうしても部活動の試合とか大会は土・日が入ると思いますのでその分の財源とかがきちんと保障されると有難いと思います。

○市長 佐々木 敏夫

ありがとうございました。

それでは、次に移らせていただきます。

第3番目「教育用タブレットの更新状況について」を事務局から説明をお願いします。

○教育総務課長 植田 克己

教育総務課の植田と申します。どうぞよろしくお願いします。

それでは、私からは、協議・調整事項（3）の「教育用タブレットの更新状況について」ご説明いたします。

資料の15ページをご覧ください。

令和2年から全国一斉に運用開始されましたGIGAスクール構想に基づき、本市では、平成29年以降、子ども市議会での要望を受け先行導入しておりましたタブレット端末に加え、不足分を令和2年度に新たに購入し、運用を行ってきました。

本市独自で先行導入いたしましたタブレット端

末が8年を経過し、サポート期間も終了すること、そして国において更新にかかる補助制度が本年度新たに創設されたことから、更新計画を立て、本年度より更新を行っております。

本年度は、490台を県の共同調達で一般競争入札を行い、9月議会において財産取得議案の議決を経て、本年4月からの利用開始に向け準備を進めております。

契約金額、契約先につきましては、資料に記載のとおりです。

もう既に納品していますので、現在、使えるよう事務局の方で準備しているところでございます。

また、令和7年度以降の予定ですが、次のページ16ページをご覧ください。来年度は380台、予算額は25,289千円を予定しておりまして、来年度の当初予算に計上予定としております。

更新計画は下の表をご覧ください。

令和6年度に購入したタブレット端末は、今年の4月から新小学1年生、新中学1年生、そして新中学3年生が利用を開始します。

次年度以降、令和7年度に購入予定の380台については、令和8年から新小学1年生、新中学1年生が利用を開始します。

こういった形で、5か年間をかけて更新を行い、原則小学校1年で配布したタブレット端末は6年生まで使用していただき、中学1年で配布したタブレット端末は3年生まで使用していただき、それを2回転する。そうすることで、タブレット端末は基本的には6年間使用するというサイクルとなり、それに合わせて更新計画を立てていきたいと考えます。

しかしながら、機械でありますので6年経ったら壊れるのかという話もありますが、そのことにつきましては、6年の経過をみながらまた、改めて更新計画を作成していきたいと考えております。

以上です。

○委員 護城 和代

小さいころからタブレットを供給することは子どもたちのこれから先未来に向けてとても良いことだと思う。分からないことを自分で探して、調べたりすることで色々な可能性が広がることは本当に素晴らしいことだと思う。

○委員 大嶽 由美子

十数年前にギガスクールとかタブレットの話題が出たときに、まだ、そういうことは、先の話だと思っていたのですが、一気に全国的に広がり、各学校に配付され、今、各教室でタブレットを使っていない光景を見ることの方がなくなり、本当にすごいことだと思います。おかげさまで、子ども一人一台整備していただいたことは、教育に関してすごく大きなことだと思う。故障や修理等必要なことがあると思いますけど、このまま進めていってほしいと思います。

○委員 桑原 猛

学校現場にあまり行くことがなかったのですが、この前、高田中学校に授業を見学し、タブレットを使っている様子を見て、今の教育内容は昔とは違うと驚き、また、今からの時代はIT等避けられないので、小さい頃からタブレットを身近に触れることは良いことだと思います。また、一人一台も供給できていることは、本当に素晴らしいことだと思うのでぜひ、継続的にやっていただきたい。

○委員 松成 康男

タブレットの使用は最長6年でよろしいでしょうか。

○教育総務課長 植田 克己

古いタブレットだと平成29年からの使用でおおよそ最長8年になります。

○委員 松成 康男

現状では、使えている状況ですか？

○教育総務課長 植田 克己

現状では使えていますが、サポート期間が切れるということで保守の対象ではないということになります。

○委員 松成 康男

タブレットや自分が使うスマホもそうなのですがどんどん機種が変わって、その都度、性能もよくなっているのですが8年前となるとデータが重たかったり、開けなかったり、あと対応していなかったりがあると思うのですがそのところが難しいのでは。と思うところと1年生がタブレットをもらい6年生まで使用とありますがタブレットがもつものはもつと思うのですがやはり、学校にも持って行ったり帰ったりで破損したり、不調になったり

が多々あるのではと思うのですが、その辺は臨機応変に対応したりするのですか。

○教育総務課長 植田 克己

まず、1点目の長く経過したタブレットについてですが、今までは、古いタブレットはできるだけ、1,2年生が使用し、高度の使用は、中学生になってからですので令和2年に購入した分はなるべく高学年に配置している状況でした。2点目についてタブレットの持ち帰りについて積極的に推進しており、ハードケース等をつけていますが落として割れたりが年間通じてやはりあります。その対策として教育員会が予備を持っていますので破損等があるとすぐに対応できるように授業に支障がないように準備しております。

○委員 松成 康男

高学年等授業のレベルに合わせてタブレットの性能に支障がないように配付されているということと小学1,2年生も長く経過したタブレットでも使えないことはないとは思いますが、シンプルの内容であれば使うことができると思います。納得しました。

ありがとうございます。

○市長 佐々木 敏夫

それでは、次の協議・調整事項に移りたいと思います。高田高校への昼食の無料提供についてです。まずは、事務局から説明をお願いします。

○学校教育課 河野 政文

18ページをご覧ください。

本市では「子育ては社会全体で支えるべきであり、教育には隔たりがあってはならない」という市長の基本的な考え方のもと保護者負担を軽減する対策として、令和7年4月から、市内唯一の高田高等学校の更なる魅力化にもなるため、高田高校の希望する全ての生徒に無料で昼食を提供する準備すすめているところであります。

事業目的に書いておりますとおり、給食センターにおいて調理したバランスのとれた食事を提供することで高田高校生を応援するとともに高田高校が市内外から選ばれる魅力的なツールとなり、豊後高田市の更なる移住定住施策の促進と保護者への経済的支援及び子育て支援の充実を図りたいと考えております。

高田高等学校側の受け入れ態勢ですが、校長先生をはじめとし教職員のみなさんについても大変、好意的にありがたく受け止めていただいております。

県教育委員会との協議の中では、昼食時の誤飲などの危機管理マニュアル、給食支援員の具体的な活動、生徒への事前指導、準備・配膳の方法、昼食時の安全管理について協議をしました。

現在、給食センターとの協議の中で、危機管理・連絡体制等のマニュアルや献立等の確認、「詳細献立表」や「加工食品原材料配合表」これは、加工食品の中に原材料を明記し、生徒に対し、アレルギーが分かりやすく、自分が食べてはいけないものをみて分かるように、配布する予定であります。

具体的に事業概要を説明いたします。

給食費につきましては、高田高校生は無料です。メニューにつきましては、小・中学校の献立と同様ですが牛乳は除きます。火曜日と木曜日はパンの日になっています。個別のアレルギー対応は行いませんが、先ほど伝えたように「詳細献立表」や「加工食品原材料配合表」を事前にご家庭にお渡しする予定となっております。

実施体制におきましては、昼食支援員4人を昼食提供がスムーズに行えるよう配置するようになっています。昼食支援員は、配膳、片付けの手伝い、見守り、緊急時の対応を行います。生徒につきましては、給食当番制を導入し、スムーズな昼食がとれるようにしていきたい。配送体制の強化といたしまして、給食センターの配送ルートを増便し、小・中学校と同様に配送します。希望調査につきましては、来春の新2年生、3年生には、2月中に希望調査を行います。新1年生につきましては、入学説明会が3月17に予定されておりますので希望調査を行います。施設の改修につきましては、給食配送に伴い、高田高校の電線の移設、スロープの新設等を行っているところでございます。あと、コンテナ、食缶、食器、配膳用長机を整備します。

19 ページをご覧ください。高田高校の昼食提供が始まりますというパンフレットであり、ご家庭にも配付しております。

特に安心安全な食材の選択といたしまして、自然栽培米を使ったご飯が食べられるということ、野菜につきましては「夢叶野菜」というブランドの野菜、

地産地消の野菜を使って調理しております。牛肉につきましては、豊後高田市のブランド牛である豊後・米仕上げ牛を使用しています。パンは、大分県産小麦「南の大地」が使われています。だしにつきましては、煮干しや鰹節、昆布でとった豊後高田市の「ぶんごたかだし」を使っています。これらの食材を使用し、おいしく魅力ある献立に努め、徹底した衛生管理で行い、給食センターから高校生・中学校3年生にこのパンフレットを配布したところでございます。

○市長 佐々木 敏夫

ありがとうございます。

これに対して、ご意見等ありますか。

○委員 大嶽 由美子

高校の無料提供については、私は、本当にびっくりしました。市長が今まで色々進めてきました教育に対する色々な施策の中でこの高校の昼食提供につきましては、本当に一歩先に進んで取り組まれていると思います。給食の無償や高校の授業料の無料等市長が前から取り組まれていることを今、後になって国がやっており、この高校の昼食提供も将来を見据えて本当に素晴らしいことであると思います。

きっと生徒の皆さんや保護者も喜んでいていると思います。

○委員 護城 和代

豊後高田市の給食は、美味しいとすごく評判でして、子ども達もおかわりをたくさんすると聞きました。それが高校でも食べられるとなると、とてもよいです。

お腹いっぱいにご飯を食べられる幸せというのは、年齢層に関わらず幸せなことで、高田高校のアピールにもつながります。また、高校生が大学に行くと大学でその話を友だちにするとことで他県にも高田の良さがあちこちに広がるのはとても良いことだと思います。

○委員 松成 康男

高校の昼食の無料化とても素晴らしいことだと思います。4月にスタートしてから課題がまた色々、見えてくると思います。それをクリアしながら、続けていき、高田高校の魅力の1つにしていいただければと思います。また、先ほど説明がありましたから安心しているのですが、アレルギー対応は高校生で

すし、自分でできるとは思いますがきちんとして、また給食センターの衛生管理等しっかりと対応してほしいです。

○委員 桑原 猛

高田高校の給食の無料化は、本当に素晴らしいことだと思います。前向きにぜひ、進めてほしいと思います。ただ1つ気になるのは、パンフレットの内容に魚に関するものが1つも載っていないということです。大分県も海に囲まれた県ですし、この前のガザミとか牡蠣とかの話題もありますし、ぜひ、給食センターに魚食普及の食育にもしっかりと努めてもらいたいと思います。

○市長 佐々木 敏夫

給食のアレルギー対策等は、現在でもしっかりとしており、また、食材についても地産地消を中心に使うよう教育委員会も気をつけています。また、海の幸もたくさん食べると頭の良い子に育つという話もありますし、高田高校生の難関大学突破に向けた取り組みも行っていますし、食育に結びついていけばよいなと思います。

それでは、続きまして『中学3年生の進路状況について』事務局からお願いします。

○学校教育課長 河野政文

21 ページをご覧ください。

現在、中学3年生につきましては、三者面談や個別面談、そして、教職員が集まりまして進路部会を1月現在で5回開催しながら、子どもたちの進路希望の動向を聞きながら希望する公立高校や私立高校への進路実現に向け、進路指導を行っているところであります。特に進路選択を希望している主なものとして、進学、部活動、看護科、調理科がある学校を進路選択し、将来の夢を実現するために高校を選択している生徒が多いようでございます。部活動は、陸上、野球、ソフトテニス、バスケットボール、空手、サッカー、バレーボール、バトミントン、ラグビー、卓球などがあります。高校3年間で自分の好きなスポーツで青春を燃やしたいという希望をもった子どもたちが多いです。自己の夢をもって、その実現に向かって進もうとする子ども達に適切な指導をしながらも一市一校である高田高校等学校への進学も大事にして進路・進学指導を行っています。

県立高等学校の試験日は、3月11日～12日です。県立学校の合格発表日は3月14日です。以上であります。

○委員 松成 康男

やはり、一市一校で高田高校に進学してほしいという希望はありますが、やりたいことを求めたときには、違う高校に行かなくてはいけないと様々な状況があり、ジレンマに感じるのですが個人の将来を見据えて適切な進路指導を行っていただければと思います。

○委員 護城 和代

先ほど教育長がおっしゃったように「うみね」が3年経ったので、それなりに結果が出てくる頃ではないかと楽しみにしています。子どもたちが高田高校から行きたい大学に行けるようになれば市内中学生が自然と高田高校を経て夢に向かって進学することができると思います。これからもやはり、高田高校に向けていくために21世紀塾や自分で一生懸命頑張ることを小さい頃から学んでいくことが子どもたちにとってもよいことだと思う。

○委員 桑原 猛

高田高校も無料の昼食提供等行いますので、保護者の負担が減りますので、高田高校に入る方が増えればよいなと思います。学力の面は、今、お聞きするとだいぶ上がってきているので、以前は、学力の件で違う高校を目指す子が結構いたが、その部分はクリアできているのではないかと思います。スポーツとか自分のやりたいことがある方は、仕方がないと思いますけど。

○委員 大嶽 由美子

やはり、子どもたちのやりたいことを保証してあげることが高校側としてもとても大切になると思います。高田高校で夢を実現できるということはすごく大事であると思います。例えば、中学校の時にスポーツで良い成績を残した子どもたちが高田高校にいくかというところではないという話を聞きました。スポーツに限らず、文化面でも高田高校でそういった保証をしてあげること、高田高校で夢を実現できる場所となれば、子どもたちも希望が持てるかなと思います。

○市長 佐々木 敏夫

豊後高田市の部活動の生徒の数を見ると生徒がいないといえますか。陸上部もレギュラーに1年～3年生どの学年も入っているのですよね。しかしながら、九州大会、全国大会に出場する。こんな幼い子が走るのって思うのですが大きな大会に出て良い成績を残すので、やはり、すごいな。チームワークなのかなって思います。豊後高田市の子どもたちは本当によく頑張っています。

○委員 護城 和代

中学校の部活動も地域移行が始まっていますので、皆が力を合わせて、高田高校に進学する人数を増やしていけたらいいのかなと思います。

○委員 松成 康男

今、おっしゃったように突出した実力があって他校に行く子もいれば高田高校に魅力があって外部から入ってくる子もいて均衡がとれればいいのかなと思います。

魅力ある高校づくりも高田高校もしていただきたいと思います。

○委員 桑原 猛

私は個人的には豊後高田市が好きなので、高田高校一択だったのですが、学校もそうなのですが、魅力ある豊後高田市になっていったら、高田高校に人が入ってくるようになるのかなと思います。

○委員 大嶽 由美子

今、おっしゃったように豊後高田市自体が魅力ある市になってきており、高田高校も魅力ある学校になってきている。上昇気流にのってきているように感じます。この気流の中で市長が色々な施策を進めていくことで高田高校の魅力も色々なところで発信されると思います。とても期待しております。

○市長 佐々木 敏夫

今日、大分合同新聞の中でも少子高齢化についての記事が大々的に出ていましたけれども今、豊後高田市といえますか県下で話題になっていることは、子どもを産む20～30代の若年女性の割合が豊後高田市は2ポイントプラスになっていることです。大分市も別府市も全国もマイナスになっているのです。大分県は全国よりもさらにマイナスになっています。大分県は100万人維持できるかが今後の試練だと言い、佐藤知事は「今後は、市町村と連携して

子どもを産み育てやすい環境づくりに努めていく」とおっしゃっており、それを聞くととても嬉しい。豊後高田市だけがプラスではなくて他の市町村の方が何もない豊後高田市より、恵まれた社会環境があります。ぜひ、一緒になって子育て環境を作って、プラスになっていきたい。

また、豊後高田市も新たな子育て支援として、真玉に第2期の無償の住宅団地を着手しており、地権者との話し合いも済んでいます。また、移住定住も温泉施設と道の駅と住宅団地をセットで田染の方に本格着工できたらよいと考えております。田染の方では、移住者が中心となって小・中学校を守ってくれていて、地域の連携が取れている。そういう積極的な地域には、市のサポートをしていきたいと思っています。さらに、こういう会でもぜひ、新たなテーマをだしてくれるとありがたいと思っています。

それでは、次の園児・児童・生徒の見込の数について事務局から説明をお願いします。

○学校教育課課長 河野 政文

それでは、23ページをご覧ください。

表の右側に平成30年度から令和7年度までの小中学校の合計人数をお示ししているところであります。小中学校については、1,500人台を維持しながら推移しているところであります。

それから、下段の方にあります。3歳児から5歳児までの「幼稚園と保育園に通っている園児の数」をお示ししています。

例えば、平成30年の1年生147人ですが、学年が上がるに従い人数が増えていることが分かるかと思っています。来年度は、中学2年生ですが、151人になっています。全体的に見ますとどの学年も年数を重ねていくたびに児童生徒数が増えているところです。園児数もこのように斜めで数字を見てみますと人数の増加がみられています。

下の表を説明します。大分県の教育委員会から示されました人口動向から見た5年後、10年度の中学1年生の数ですが令和6年度は149人ですが、5年後、10年後の中1は168人でありあります。他の市町村から見ますと豊後高田市は170人前後であり変動がないということが豊後高田市の状況となっています。

現在の子育て支援策や移住施策をはじめとする取り組みがどれも成果となっているのではないかと考えているところであります。

以上でございます。

○委員 桑原 猛

子どもたちが増えるということはとてもよいことだと思います。ますます、増えるような施策があれば考えていただき、活気ある豊後高田市にしていただければと思います。

○委員 松成 康男

全体を見たときに、増えているのが分かれば、本当に喜ばしいことです。自分が小学校のPTAに所属していた時に小学校の統廃合を経験しましたので身近で起こったので、やはり危機感を覚えますのでそういった地区にどうやってテコ入れができるのか難しいことではありますがトータルで人数が増えても学校でみると少し減っているのは、何とかならないかと思います。やはり、地区から学校がなくなってしまうと活気がなくなりますので、そういった対象の地域には、特に施策をしてお子さんが増えてくれたらと思います。

○委員 護城 和代

小学校をみると高田小、桂陽小の校区は人口が多いので心配はないが、地方の方の学校は児童生徒が減っているので統廃合が心配される。地域の力で地域の小学校に通えるように移住支援等に協力しながら頑張っていけたらと思います。

○委員 大嶽 由美子

児童・生徒数の推移について特に園児については推移が変わらず保てていけるのは本当にうれしいことである。去年まで幼稚園のお手伝いをしていたが、幼稚園の先生が「子どもたちがどうやったら増えるだろう」と頭を悩ませていました。幼稚園に来てくれるような特色ある幼稚園づくりを目のあたりにして各学校や幼稚園が努力しているのが背景にあるのかなと思います。10年まで、人数が減らずに推移しているのが本当にうれしい。地域の皆さんの努力もありますので、ぜひ、宣伝してほしい。

○市長 佐々木 敏夫

行政といたしましては職員が問題意識をもち、共有することで問題に立ち向かっております。

豊後高田市全体では、大きな変化がないと自然減

が年間380あります。一時、4年連続300人程移住者を確保できていましたがコロナの時期にワクチン等で先が不安定なため、一時、出産を見合わせる方もいらっしゃったみたいです。今年度は、移住者が例年より増えており、5か年にすると1,501名の移住者がいます。逆に1,501名の移住者がいなかったら豊後高田市の人口はどうなるのかなと思います。

人口が減ると私が一番心配しているのは、活気が下がり、税収が減り、負の連鎖が起こります。

また、豊後高田市のよいところは、ケーブルテレビが全戸に網羅されている。今までは、空き家になったら、費用をかけて撤去し、また、移住者が入ったら費用をかけて設置をする。これの繰り返しであった。それをうまくリサイクルも含めて職員で行って節約をしている。その節約しているお金を子育て支援に充てています。職員の工夫で良い意味で市の財源が増える。

だから、移住者に対してどうしてここまで手厚いのか言われる部分もあるのですがしかしながら、移住者がこない豊後高田市内の人口がどんどん減ってしまうのです。移住者が来る理由は子育て環境がいいからということ。だから子育て環境は手が抜けないのですよ。

これからの豊後高田市の子育て環境のためにこの会議も含めて皆と一緒に作れたらと思います。

その他ですが、事務局から何かありますか？

○文化財室長 河野 典之

はい、よろしいですか。

文化財室の河野でございます。よろしくお願い致します。それでは座って報告させていただきます。

今年度の文化財指定等に関する報告を3点ほどさせていただきます。まず日本遺産“鬼が仏になった里「くにさき」”の取り組みについてでございます。平成30年5月に認定され国東市とともに取り組みを行ってまいりましたが、昨年、6年目を迎えたことから日本遺産認定継続審査の対象となりました。その結果、これまでの取り組み実績や今後の地域活性化計画が高く評価され継続認定よりも一つ評価の高い重点支援地域に選ばれたところでございます。継続審査については平成30年に認定された13カ所の審査が行われ、その内本市を含め2

件のみが重点支援地域となっております。

重点支援地域のメリットと致しましては文化庁の100%交付のモデル事業が採択されやすくなり、他の地域へのモデルとなり得る事例として全国的に注目を集めることや文化庁の一部の補助事業についても補助率が5%程度上乗せされるといった優遇措置が得られることなどがあげられます。今後は3年毎に、継続審査が行われるといったことから、発展的に継続していくことが求められております。今後は重点支援地域のさらに1ランク上のステージとなります、日本遺産プレミアム（特別重点支援地域）を目指して事業継続して参りたいと考えております。

続きまして昨年10月11日に都甲地区の長安寺、天念寺、香々地地区の夷岩屋、国東市の岩戸寺が「六郷山」として国の史跡に指定されました。お手元に配布しております資料の1ページをご覧ください。長安寺、天念寺の遠景写真になります。2ページ目が夷岩屋の遠景写真になります。左から靈仙寺、実相院、六所神社となります。六郷山は平安時代以降に整備された国東半島の6つの郷に点在する天台宗寺院や岩屋の総称で、一般的には「六郷満山」として知られており、今回、古代から中世の信仰のあり方を理解する上で重要として指定されました。

最後に田染地区の「穴井戸観音」の国の登録記念物への登録についてご報告いたします。資料の2ページ目の下の方をご覧ください。穴井戸観音の遠景と洞窟内部に祭られている濡れ観音となります。昨年の12月20日、国の文化審議会の答申を受けまして、近く国の名勝地に登録される運びとなりました。既に登録を受けております「真玉海岸」、田染の「鍋山」「朝日岩屋」「夕日岩屋」とあわせると合計5件となります。穴井戸観音は六郷山の霊場としてだけではなく、重要文化的景観「田染荘小崎の農村景観」や、大分県立国東半島自然公園の範囲としても重要な場所であります。

本市には、市内各所に数多くの文化財があります。

今後も日本遺産の取り組みと同様に文化財の活用を図りながら関係各所と連携し交流人口の増についても、積極的に取り組んでいきたいと思っております。

以上で報告を終わります。

○市長 佐々木 敏夫

これで、協議事項を終わりたいと思います。

長時間にわたり、ご協力を頂きまして、ありがとうございます。

それでは、事務局に進行をお返します。

○市総務課長 飯沼 憲一

ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、令和6年度 豊後高田市総合教育会議を終了いたします。大変、ありがとうございました。

